

墨日記

令和四年
秋号
第三号

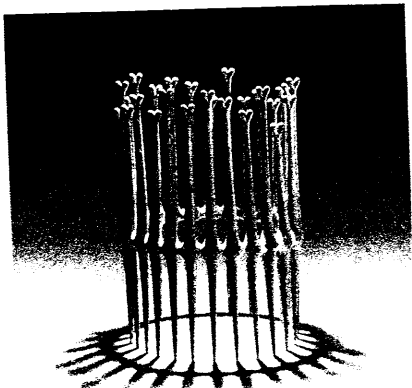


暑さ寒さも彼岸までと言いますがやはりこの所
朝晩の冷え込みは体にこたえますね。今年の夏は
連日猛暑で特に秋葉区では県内最高気温を
何度もくり返しました。又、今年の冬は寒く雪が
多いと予想されています。先が思やられます
秋の金体錬成会も大勢会員が参加され勢
終了することが出来ました。会員の意気込みが
現れていました。左記の案内ハガキのように、これ
から色々な展覧会が開催されます。見ることは
目習いと言って手習より大事とされていますから
ぜひ時間を作って見学に出かけてみて下さい。
何かお宝が転がっているはずで、秋葉区展は地元の展覧
会です。当会からも40人以上出品いたしますので地域活性
化の為にもよろしく願います。この秋は鑑賞の秋として
芸術書を楽しんで頂きたいと思っています

理事 審査員 菅井松雲、年度審査員 近藤光

第54回 新潟市展

洋画 / 日本画 / 書道 / 彫刻 / 工芸 / 版画 / 写真
併催 第54回 新潟市美術協会展



山本 重吉「最初の雪」彫刻

会場 新潟市美術館 (新潟市中央区西大畑町5191-9)
会期 【前期】令和4年10月12日(水)～10月16日(日)
【後期】令和4年10月19日(水)～10月23日(日)
時間 午前9時30分～午後5時
10月12日は開場式(午前10時)終了後開場、10月16日、23日は午後3時終了。
二美術館に展覧される際はマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保など感染対策にご協力をお願いします。
二発熱や咳、咽頭痛などの症状のある方、体調に不安がある方は、ご入場をお控えください。(入口にて検温を行います)
二新型コロナウイルスの感染状況により展覧会を中止または延期とする場合があります。

秋葉区美術展

第16回
〔日本画〕〔洋画〕〔版画〕〔彫刻〕
〔工芸〕〔書道〕〔写真〕



第15回展 工芸部門最優秀賞「天目耳付壺」天野陽子

令和4年
会期 10月15日(土)～10月23日(日)
午前10時～午後5時(但し最終日は午後3時まで)
【表彰式】10月23日(日) 午前10時30分から
新型コロナウイルス感染症の状況によっては、内容・日程が
変更になる場合があります。

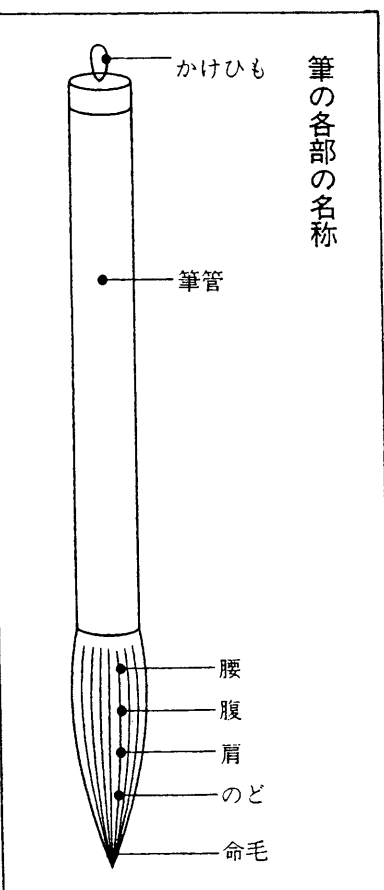
入場無料

会場 新潟市新津美術館
【主催】新潟市秋葉区 【主 管】新潟地区公民館
【共 催】新潟美術協会・小須戸文化協会 【後 援】新潟日報社 ラジオチャット・エフエム新潟

電車の座席二人分くらいの場所にふんぞりかえって、携帯電話で話している人
を最近よく見かけます。すわっている人達がゆずり合う心をもって少しずつめ
さえすれば、もう一人すわれるくらいのスペースは簡単にあげられます。
今から千二百五十年ほど前、中国に張 旭というたいへん字の上手な人がいまし
た。この人が「私はある日、身分の高い人と天秤棒で大きな荷物を担いだ労働者
が、細い道で出会い、互いに身体を横にして場所をゆずり合って通りすぎる様子
を見て、漢字の「へん」とつくり、の組み立て方を思いついた」とっています。つ
まりこれが「相譲相避」法という字形の整え方の一つで、へんとつくりは互い
に相手の場所に線がのびるのを避けて短くし、組み合わせる方法です。
このように相手への思いやり、全体の中での自分のあり方を考えることによつ
てすばらしい文字の形を作り出しました。これが文化です。座席をゆずり合うと
いう思いやりの心がなければ、文化人とはいえません。自分だけよければ相手は
どうでもかまわないという人は、決して字が上手にならないでしょう。

●筆の名称の由来

「筆」という漢字は「竹」と「聿」によつてつくられた会意文字であります。
甲骨文字にみるように筆を手に持つ形であります。原字は「聿」です。楚の国で
は「聿」といい、呉の国では「不律」といい、燕の国では「弗」といいましたが、
秦になって「筆」と呼ばれるようになったといわれます。今、中国の簡体字とし
て使われている「笔」という字も古く俗字として使われていました。
日本では筆のことを「ふみで」「ふみで」といわれていましたが、のち「ふん
で」となり、「ふで」となりました。古文書のなかには「書手」という表記が残
っています。また、「布美天」「不美手」なども書かれました。
筆の異名として、毛穎・兎毫・毛錐子・管城中書君・黒頭公・鼠尾・鼠鬚・水
ぐき・はなのき・心の使などがあります。



新潟県文化祭 第50回 記念 令和4年度

日本画・洋画・彫刻・工芸・書道・写真
会 員 ・ 公 募

前期展 10月29日(土)～11月3日(木・祝)
【洋画・彫刻】
中期展 11月5日(土)～11月10日(木)
【工芸・書道】
後期展 11月12日(土)～11月17日(木)
【日本画・写真】

各会場共午前9:30～午後5:00【各会期中 休館日なし】(前期展の初日のみ午前10:30より/各会場共最終日は午後3:00終了)
【11月14日(日)】11月14日(日)は、県民会館の休館日であるため、本会場の入場券は有効ですが、入場はできません。入場券をお持ちの方は、ご入場ください。

■ 会場 新潟県民会館ギャラリーA・B
新潟県民会館展示コーナー(1階)
(〒951-8132) 新潟市中央区一番堀通町3-13 TEL025-228-4481
主 催 新潟県美術家連盟・新潟日報社
共 催 新潟県
後 援 (公財)新潟県文化振興財団・新潟市・NHK新潟放送局・BSN新潟放送・NST新潟総合テレビ・
TeNYテレビ新潟・U-X新潟テレビ21・新潟日報美術振興財団・新潟県新潟フジカラー
入場料 ◆大人 500円 ◆学生無料 (小・中・高・大・専門学校生)
＜問い合わせ＞ 事務局 小原美穂 (TEL/FAX 025-211-8774)

中村秀月

令和 4 年 7 月 22 日～25 日までの 4 日間、新潟県民会館 3 階ギャラリーに於いて、

第 35 回記念新潟県書道協会会員展が 3 年振りに開催されました。

会場には、漢字、近代詩、かな、篆刻、刻字、前衛書など多種多様な書風の作品が約 260 点展示され、さらに「先人の書画調和展」の併催展示もあり奥深い書の美しい世界の中で見応えのある楽しさを感じました。

記念講演会では、墨象作家として活躍されている 菅井弦先生による「前衛書の魅力と可能性」という演題で、文字の造形を離れ書による美の発想、素材、技法を多様に表現される現代の新しい書の世界を映像を交えながらのお話はとても興味深く感動しました。最終日には、「作品を楽しむ会」と題して菅井先生のお話をお聞きすることができました。他の会の違う流派の作品を例に、落款の書き方や全体のバランス、紙と墨の性質を生かした作品作りの技法など、わかりやすく丁寧に解説して下さり有難うございました。

今回の 35 回記念展の実行委員長である菅井先生は、搬入、陳列、開場式、記念講演会、祝賀懇親会、搬出、撤去と全てにおいて陣頭指揮に立たれ、細かい所まで気配りされていました。本当に大変なご苦勞をされたと思います。心よりお疲れさまでしたと感謝致します。

最後に、今回の展覧会であらためて感じたことは 菅井先生の作品は本当にお洒落で魅力的だと。菅井先生にご指導頂けることは本当に有りがたく幸せなことです。

これからも努力精進を重ねて参りますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。



当会出品者
菅井松雲(実行委員長)
中村秀月(実行委員)
田中梨風
藤田南龍
灰野紅舟

書花展会場→



第 26 回書花展が令和 4 年 9 月 1 日から 4 日までの 4 日間、新潟市の新潟県民会館 1F 展示コーナーで開催されました。例年は年の初めに開催してまいりましたが、今回は会場の改修工事の都合でこの時季での開催となりました。大作では味わう事の出来ない書の小品をあえて課題として取り組み、生け花と併せて「生活空間の書と花」をテーマとし、家に飾って気軽に楽しむことが出来るものを目的としました。

当会選抜の 30 名 32 点の作品が展示されました。大きさは半切 2 分の 1 以下で縦横自由。書体も篆書から隷書・行草書・仮名等自由。テーマは漢詩や名言・歌詩等様々で、絵を取り入れた作品もあります。表具も額装・軸装ありと変化に富んだ構成となりました。会場に来て頂いた皆様に飽きの来ないバラエティ豊かな展示になったと思っています。出品者にとりまして、公募展にはない様式の作品に挑戦する機会となり、作品作成自体を楽しむことができました。

生け花は、池坊・小原流・龍生派などの 10 点が書作品と空間を共有にするように配置され、会場を訪れた方々の目を楽しませてくれました。ヒマワリやワレモコウをはじめ、夏の終わりや初秋を感じさせる作品が飾られました。連日暑い日が続き、生け花には過酷な条件で水の管理等作品の維持に苦勞いたしました。

サブ作品は当会特別注文の揃いの 17 cm 角の額です。中央の 7 cm 角の作品スペースに、各自好きな漢字 1 文字を大胆にデフォルメして収めました。これを 15 点ずつ 2 段に飾り付けました。作品に比べて広めの額縁ですが、白と黒の額 30 点の作品が市松模様状に整然と並び、サブ作品展示のコーナーは全体がひとつの作品のようになりました。額縁の太さと作品の大きさのアンバランスなところがむしろモダンな感じがし、作品を引き立て、ひとつで置いても存在感のある作品となりました。

近年にない猛暑が続くなか会場に足を運んで頂いた皆様に感謝申し上げます。最終日には周辺でいくつかのイベントの開催があり駐車スペースが全く無くなり、長時間順番待ちをしたり、なかには引き返した人もおられたとのことで、とても残念に思いました。しかし会期中に 500 名を超える多くの皆さんにご覧頂きました。

今回も新型コロナの感染対策を取りながらの開催となりました。失礼な点もあったかと思われませんが、皆様のご協力によりましてつつがなく終了することが出来ました。

会期中、御祝電やお祝いのお花をたくさん頂きました。大変有り難うございました。多くの皆様に注目されていることを感じ、責任と期待を果たさなければならぬと強く感じました。

例年ですと最終日に会長から作品 1 点毎に講評を頂きましたが、今回は新型コロナ感染対策のため、書面により、全作品に一行ずつ講評を頂きました。自分では分からない点を的確に指摘して頂き、今後に生かしたいと思います。

サブ作品に使用した、特注の額は大きな額の端尺を活用して作成したものです。このアイデアは菅井会長によるものです。常に周囲に関心を持ち、新鮮な気持ちを持ち続ける態度には頭が下がります。私たちへの熱心な指導に対して感謝申し上げますと共に、体に無理をせず今後も変わらぬご指導をお願い申し上げます。